

1 目指す学校像

(1) スクール・ミッション

「敬愛・自主・力行」を教育目標とし、**知的好奇心を高める授業、キャリア教育、班活動（部活動）、国際交流の推進**といった教育活動を通じて、**高い志をもって自らの進路を追求する生徒、学習と行事や班活動（部活動）の両立に全力で取り組む生徒、広い視野をもち国際社会で活躍する生徒の育成**を目指す。

(2) 教育目標

心身の健全な発達を図り、良識ある有為な人材を育成するため、「敬愛」・「自主」・「力行（りっこう）」を教育目標に掲げ、教育活動に邁進する。

「敬愛」とは、学ぶ者としての真摯で謙虚な態度と他者を思いやる心

「自主」とは、自ら考え、積極的に行動すること

「力行」とは、目標に向かって、志高く努力し続けること

(3) スクール・ポリシー

① グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）

本校は小山台教養主義（すべての学問は通じている）を通して、次のような資質・能力を育てる。

(ア) 教科を越えた学び・・・教科の枠を越えて、広く学ぶ。

(イ) 意見の構築・・・学びから得た知識・技能を基に思考・判断を重ね、自分の考えを構築する。

(ウ) 多様性の尊重・・・多様な考えを認め、健全な価値観を養い、よりよい道を創造する。

このことにより、言語能力、理数的能力、情報通信技術力、思考力・判断力、情緒力・創造力、情報活用力、コミュニケーション力、科学的探究力、健康に生きる力を身に付け、学びを絶やさず自らを高めていける人物、他者を理解し協働できる人物、世界に目を向け社会に貢献できる人物を育てる。

② カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

本校は次のような教育活動を展開する。

(ア) 生徒の知的好奇心を高め、幅広い教養と探究心を身に付けるために、授業研究による工夫と ICT 機器の活用など授業改善を徹底して行い、活力ある授業に取り組む。

(イ) 学問を志す者としての基本姿勢を身に付けるために、挨拶や望ましい言葉遣い、時間厳守の励行、身だしなみを整える等、規範意識を高める取組を行う。

(ウ) 自己を肯定的に捉え、他者の価値を認め敬う心を育てるために、自己の在り方、生き方を考える取組を行う。

(エ) 進学指導特別推進校として、高い志をもって、自らの進路を実現するための努力を怠らない生徒を育てるために、キャリア教育を充実し、生徒の進路実現に向けた取組を行う。

(オ) 何事にも前向きに取り組む姿勢を育成するために、学習とともに、学校行事や班活動（部活動）への積極的な参加を奨励し、目標に向かって努力する活動を行う。

(カ) 広い視野と豊かな人間性を育み、国際社会で活躍する次世代のリーダーとなりうる人材を育成するために、外国語教育及び国際交流を推進する。

③ アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れに関する方針）

本校は「敬愛・自主・力行（りっこう）」の態度を養うことを教育目標に掲げ、向上心にあふれ常日頃から努力を怠らず、自らの目標を達成できる人材の育成に努めている。そこで、次のような生徒の入学を期待する。

(ア) 大学進学への意欲が高く、また、自らすすんで学業に取り組み、目標を達成しようとする志の高い生徒

(イ) 学校行事や生徒会・委員会活動、部活動等において、中心的な存在であった生徒、もしくは、何事に対しても真剣な態度で臨み、地道な努力を重ねてきた生徒で、入学後も引き続き努力を続けられる生徒

(ウ) 諸外国の歴史や文化及び国際交流等に強い興味と関心をもつ生徒。特に推薦選抜においては、上記(イ)に該当する生徒が望ましい。

2 中期的目標と方策

進学指導特別推進校として、「夢を諦めない」指導を行ってきた結果、難関国公立大（東京大・東京科学大・一橋大）に現役合格者11名、国公立大に現役合格者82名、難関私立大（早・慶・上智大・東京理科大）を加えると現役合格者127名という進学実績を上げることができた。

このような成果を踏まえ、幅広い教養と探究心を身に付け、対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し、新しい解を生み出すことができる人材を育成するために、次の方策に教職員が一丸となって取り組むとともに、カリキュラム・マネジメントを推進する。

(1) 生徒の意欲を引き出す授業の追求

難関大学受験を念頭においた「知識・技能」の習得を目指す指導にとどまらず、「思考・判断・表現」の育成を念頭においた指導を取り入れ、高い教養を身に付けさせる「小山台教養主義」のファンリテーターとして、一人一人の学習意欲を引き出し、主体的・対話的・協働的な授業を追求する。

(2) 地域や社会の人的・物質的な資源を活用した多様な学習の場の創出

社会の変化を柔軟に受け止め、生涯にわたって粘り強くチャレンジし、主体的に学び続ける資質・能力を育成するために、外部の人的・物理的資源を教育活動に取り入れ、社会とのつながりを深める多様な学習の場を創出する。

(3) 「TOKYO・スマートスクール・プロジェクト」(学び方・教え方・働き方の改善)の実現

一人一台端末をはじめ、各種ICT機器を授業や校務において活用し、授業の改善や校務の効率化を図ることにより、生徒と関わる時間を確保し、よりきめの細かな指導を実践する。

(4) 班活動(部活動)実績の向上と国際交流の推進

小山台高校の伝統を引き継ぎ、学力とともに特別活動、班活動(部活動)の活力を維持し、両立を図り、豊かな人間性を育む。また、国際交流やキャリア教育を一層積極的に推進し、言語能力の向上を図るとともに、生徒の国際社会への関心を高める。

(5) 心身の健康・安全対策の強化

安心・安全且つ、体育的な活動に積極的に取り組むための環境の整備を進めるとともに、保健指導、安全指導等を充実する。また、教育相談機能の充実を図り、心身の調和のとれた発達を促す。感染症の予防対策に取り組む。

(6) 広報活動の推進

「行事や班活動を活発に行いつつ、難関国公立大学をめざす生徒が集う小山台高校」という認識を広めるために、組織的・積極的な広報活動を行う。

(7) 未来構想委員会の設置

「小山台高校未来構想委員会」を設置し、創立100周年の伝統を踏まえながら、今後さらに魅力ある小山台高等学校とするために、その在り方等について検討する。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

① 学習指導

今年度の取組目標	具体的な方策
意欲を引き出す授業	<ul style="list-style-type: none">・ 生徒の知的好奇心を高める教養としての「学び」の提供・ 「知識・技能」に加え「思考・判断・表現」の充実を目指す3年間の指導体制の確立・ 問いかけを重視した探究活動の手法を教科学習にも活用させる授業実践・ 一人1台端末の積極的な活用による双方向通信の実施・ 課題発見と解決に向かう主体的・協働的な深い学びを実現させる授業改善・ 探究型学習プログラム「MIRAI」における探究活動の充実・ 若手教員の指導育成を目指した「若手教員研修会」による教科指導力や生徒指導力等の向上

学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づく年間授業計画の策定 ・3年間というスパンで俯瞰した組織的、体系的な学習指導 ・外部の人的・物理的資源の活用による教育活動の充実 ・GE-NET EE 指定校事業を通じた4技能5領域のバランスのとれた英語力向上と英語外部検定等の結果を活用した英語教育の充実 ・同一科目内での考査問題の共通化と観点別学習評価の適正な実施による生徒の学習活動の改善につながる作問と評価の実施 ・外部機関を活用した授業分析による教科指導力の強化
学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・切り替えと集中、学習手帳の活用による三点固定の生活習慣の確立 ・予習・復習の習慣化による家庭学習時間の改善 ・登下校時間等の隙間時間を活用した学習の推奨 ・学習状況や進学希望に応じた長期休業期間等を活用した講習会や個別の学習指導の実施 ・低学年時における各科目の基礎基本事項の習得と高学年時における発展的学習を意識した生徒の学習実態に応じた学習負荷の共通理解 ・学習負荷の量、課題提出日や小テスト実施日等の調整による生徒への負担の適正化

②進路指導

今年度の取組目標	具体的な方策
キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・進路部を中心として、3年間を見通したキャリア教育の計画的な実施 ・「社会人によるキャリアガイダンス」等を通じた大学受験の先を意識させる進路指導の実施 ・キャンパス探索や体験授業等の機会と情報の提供
組織的な進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・高みを目指す進路希望の実現に向かう第一志望を諦めない生徒の育成 ・低学年時からの学年担任（国教英）による模試分析と教科内での情報共有および生徒への学力向上に向けたフィードバック ・全国模試等のデータを活用した分析会における学力の定点観測を踏まえた学習指導や進路指導の実施 ・進路行事(第一志望校宣言、勉強合宿、進学希望別グループワーク、難関国公立大学講習、進路懇談会等)や個別面談等をとおした生徒支援 ・全教科担当者による個々の出願先を検討する出願検討会の実施による(難関)国公立大学、難関私立大学への進路希望の実現
休業中の講習等の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路希望に応じた進学講習の充実と生徒の参加意欲の醸成 ・特別活動との両立、計画的な学習時間管理による家庭学習の習慣化

③生活指導

今年度の取組目標	具体的な方策
規範意識と自己指導力等の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・最低年4回生徒部と学年生活指導担当者との拡大生徒部会の実施による規範意識の育成 ・授業開始のチャイムによる意識の切り替え、定時制の始業時間での施設共有の理解の徹底、下校後の生活リズムを意識させた学習時間の確保 ・問題行動等への対応における、保護者、地域住民、関係機関と連携・協力できるサポート体制の確立と健全育成の実施 ・自他の生命尊重の指導、登下校時等における自転車乗車中のヘルメット着用等の交通安全指導の実施
いじめ防止と教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止、確実な認知、早期発見、早期対応に向けたいじめ防止対策委員会の定期的な開催 ・いじめについての教職員の共通理解の確立 ・「小山台 SNS ルール」に基づく SNS 等の利用能力と態度の育成

④特別活動・班活動（部活動）

今年度の取組目標	具体的な方策
特別活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動、合唱コンクール、文化祭・運動会からなる「寒菊祭」等の特別活動等における、生徒の主体的な参加を担保することによる課題解決力の育成の推進 ・学校行事等の終了後のアンケート等による振り返りによる次年度に向けた見直し ・経営企画室と連携を密にした計画的な準備と適正な予算執行
班活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・班活動の充実による、生徒一人ひとりの成長を促す成功体験の提供と高い社会性を身に付けさせる体験の提供 ・活動内容と活動場所の適切な管理による事故防止、怪我予防の徹底 ・学習時間も確保できる適切な活動計画の策定 ・東京都教育委員会の「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」に基づく休養日等の設定、短時間で最大限の成果を上げる合理的・効果的な活動の実施 ・班活動ごとの口座による班費の一元管理と、管理職による執行管理
国際理解教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・GE-NET EE 指定校（Tokyo Metropolitan Global Education Network School for English Education）事業による国際理解に向けた英語の技能向上 ・東京都教育委員会が実施する海外との交流事業「次世代リーダー育成道場」や「都立高校生等の海外派遣研修」事業等の紹介や参加呼びかけ、参加体制の構築

⑤健康づくり、安心・安全な学校づくり

今年度の取組目標	具体的な方策
心身の健康増進と安心・安全な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育等の教科や班活動、体育的学校行事などの様々な場面を通じた生徒の体力の向上及び健康の保持増進 ・スクールカウンセラーとの連携による「カウンセリング委員会」を通じた生徒情報の共有化、専門医派遣事業の活用等による生徒の心の健康増進 ・コンディションレポート等を通じた生徒の心身の状況の把握、メンタルヘルス講習会、がん講習会等、SOSの出し方に関する授業等、生命尊重に資する教育の推進 ・消防署、地域の消防団、品川区防災課と連携し実施する地域防災訓練や救命救急講習をとおした自助・共助の精神と技能の向上 ・校内美化の推進、学習環境の整備 ・過去の事件事例を踏まえた学校事故の理解促進、未然防止の取り組み、事故発生時の管理職への報告・連絡・相談の徹底等の組織的な対応

⑥募集・広報活動

今年度の取組目標	具体的な方策
組織的な募集活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の歴史と伝統を踏まえた特色、本校の生徒だからできる活動等、他校と差別化を図った広報ができる場としての学校見学会・説明会の実施と内容の充実化 ・すべての教職員の協力による広報活動の実施 ・1年生の出身中学校訪問 ・中学校、塾への積極的な訪問、塾対象の授業参観・学校説明会の実施
情報発信の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員からの教育活動の発信による学校の様子を適時適切に伝えるホームページの充実 ・生徒と保護者の情報を乖離させない情報提供と保護者会、保護者進路説明会等の充実による学校と家庭との連携の強化

⑦学校経営・組織体制

今年度の取組目標	具体的な方策

組織マネジメントによる学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・企画調整会議参加者からなる「小山台高校未来構想委員会」を月に1回程度開催することによる本校の在り方の検討 ・分掌組織等のチーム(組織)としての業務推進、課題解決に向けたマネジメントサイクルによる事業改善 ・企画調整会議を中心とした円滑な組織運営 ・メリハリのある効率的な予算編成と確実な執行(選択と集中) ・全教職員による効率的な業務遂行による勤務時間軽減の実施
T o k y o・スマートスクール・プロジェクトの実現	<ul style="list-style-type: none"> ・各種 ICT 機器、統合型校務支援システム、定期考査採点・分析システム等の活用による効率化合理化の推進
学校の特色化とカリキュラム・マネジメントの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力向上や学校の特色化を図るために、東京都教育委員会の指定事業の生徒と保護者への周知の実施 ・生徒による授業評価や学校評価アンケート等を踏まえた教育課程改善
教育公務員としての信頼の確立とライフワーク・バランス	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者等との信頼関係を維持する対応の実践 ・体罰や不適切な指導等の服務事故の根絶 ・執務室におけるクリーンデスクの徹底、見通しの良い執務室の実現 ・個人情報紛失事故の未然防止のための教育環境・職場環境整備 ・男性教職員の育児休業の取得を推進するとともに、「学校における働き方改革の推進に向けたプラン」に基づく各種会議の時間短縮や校務の改善、夏季休暇5日、年次有給休暇15日以上取得する等のライフワーク・バランスの推進

⑨経営企画室

今年度の取組目標	具体的な方策
学校経営への参画	<ul style="list-style-type: none"> ・教育職員と連携した経営企画室の学校経営への参画と事務処理の円滑化の推進 ・法令に即し、行政視点を踏まえた学校経営、教育活動への参画 ・学校の最初の窓口としての接遇マナーの向上 ・学校行事や保護者会活動への積極的な参加
効率的で適切な予算編成と執行	<ul style="list-style-type: none"> ・校長の予算編成指針に沿った学校教育目標達成に向けた予算編成 ・学校徴収金の適切な管理、予算の有効活用を図るための計画的な予算執行、自律経営予算の執行率及び一般需要費のセンター執行率の向上 ・安全な学校教育、職場環境を維持するための施設・設備、備品の点検や安全管理、改善の実施

(2)重点目標と方策

①家庭学習の定着(自らが主体的に学ぶ家庭学習時間の増加)

項目	目標	令和6実績	令和7実績
1,2年家庭学習時間2時間以上	70%以上	<u>40%</u>	<u>40%</u>
1,2年家庭学習時間3時間以上	35%以上	<u>10%</u>	<u>14%</u>
1,2年夏期・冬期講習講座数	15講座以上	13講座	17講座

②定点観測11月の外部模擬試験(総合成績における総合偏差)

項目	目標	令和6実績	令和7実績
1年生	74以上	8人	11人
	68以上	38人	55人
	60以上	<u>181人</u>	<u>207人</u>
2年生	74以上	10人	6人
	68以上	41人	34人
	60以上	<u>161人</u>	<u>148人</u>

③進路指導

項目	目標	令和6実績	令和7実績
大学入学共通テ5(6)教科7科目受験者	200名以上	205人	191人
難関国公立大学合格者	15名(現役8名)	10(6)人	11人
国公立大学合格者	135名(現役105名)	103(82)人	102人
難関私立大合格者	180名(現役140名)	158(119)人	167人
3年夏期・冬期講習講座数	70講座以上	71講座	71講座

*大学入学共通テスト理系5教科7科目・文系6教科7科目受験者数

*難関国公立大=東大・京大・東京科学大・一橋・国公立大医学部

*難関私立大=早大・慶大・上智大・東京理科大

④特別活動等

項目	目標	令和6実績	令和7実績
部活動加入率	100%以上	108%	102%
都ベスト8以上	5班以上	3班	3班
運動会、文化祭の来校者数	5,000名	5,614名	4,800名

*運動会、文化祭の来校者数は新型コロナウイルス感染防止の観点から目標値設定せず

⑤募集・広報活動

項目	目標	令和6実績	令和7実績
学力検査での受験倍率	1.7倍以上	1.46倍	1.53倍
説明会等への参加者	4,500人	4,791名	3,246名
技術講習会実施班活数	9班	5班	8班
ホームページの更新回数	200回以上	210回	210回

⑥ライフワーク・バランスの推進

項目	目標	令和6実績	令和7実績
夏季休暇5日の取得	全教職員	全教職員	全教職員
年次有給休暇15日以上取得した職員	70%以上	70%	45%

⑦スマートスクール構想の実現と主体的、協働的な深い学びによる授業実践

項目	目標	令和6実績	令和7実績
・Wi-Fi環境を活用した一人一台端末をはじめ、ICT機器を活用した授業の実践	100%	68%	76%
・主体的・協働的な深い学びの視点からの授業実践	100%	82%	76%
・全教職員によるOffice365を活用した教育実践	100%	65%	71%
・定期考査採点・分析システムの活用の推進	95%	95%	38%

※目標数値は、実践した教員/全教員

⑧自律経営推進予算及び学校経営支援センターにおける一般需用費の執行率

項目	目標	令和6実績	令和7実績
・自律経営推進予算執行率	95%以上	99.9%	98%
・一般需用費のセンターでの執行率	95%以上	58.2%	100%

その他(主に学校評価アンケートによる数値)

項目	目標	令和6実績	令和7実績
・生徒の学習指導への満足度(親身な指導)	80%以上	76%	76%
・生徒による本校入学への満足度	90%以上	88%	88%
・保護者による生徒の本校入学への満足度	95%以上	92%	92%
・生徒によるICT教育推進の満足度	95%以上	92%	56%